

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200350		
法人名	メディカル・ケア・サービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松天竜 (第1、第2ユニット合同)		
所在地	静岡県浜松市天竜区山東4360-1		
自己評価作成日	平成24年9月6日	評価結果市町村受理日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://hp?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200350

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成24年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方々は殆ど近隣にお住まいであった方々である為、地域の行事やイベントにも馴染みが深く、スムーズに参加することが出来ている。また、農村部である為、畑作業を長年行ってこられた方が多い事があり、ホームの近所の方のご好意もあり、畑を借りて慣れ親しんだ畑作業を行い、今までの生活により近づいた環境を提供出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北遠の拠点として開けてきた交通支便の地に事業所は位置しています。また、ホンダの創業者・本田宗一郎の生誕の地として、付近にはゆかりの場所が点在しています。開設から1年を経て、運営推進会議も順調に推移していて、畑の借用を会議でお願いし実現を見ました。また近所の人たちが道具持ちで畑作業を手伝ってくれるなど、地域との一体感も生まれてきています。幼稚園との交流も始まり、畑作物の収穫祭を共同で行う企画も持ち上がっています。ほかに、地域の「いきいきサロン」では工作や手芸などの交流を通じ、以前の生活を垣間見ることができており、1年という短い期間にすっかり地域に溶け込んでいることを確認するとともに、事業所の地道な努力に頭が下がりました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 愛の家グループホーム浜松天竜(第1、第2ユニット合同)	会社の運営理念を全職員が暗記しており、朝礼時に唱和し、理解を深めると共に、実践できる様に日々の業務に於いて念頭に置いた行動を取るよう指導している	法人理念のほか、開設時に職員チーム毎に作った3つの職場理念が玄関の壁に掲げられています。朝礼時に唱和し語っています。理念を縦糸に、各週のサービスと実践内容を横糸として綾なされ、介護計画に織り上がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園との交流をもったり、畑作業を通じて地域の方々との一体感を入居者様に感じていただいている	自治会に加入し、回覧板が廻ってくる関係が来ています。巾着袋などの手芸品の差し入れや、畑作業に道具を持ち込んで協力してくれるなど、地域とは良好な関係が築かれています。幼稚園勤務の利用者家族の計らいで始まった交流会は利用者の安らぎの時間となったとのこと	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通して、地域の長の方々に発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の出席者から地域のイベントを紹介いただいたり、生き生きサロンなど交流の場を提供いただいたりしている	開設以来2ヶ月に1度開催され5回目を数えました。市、自治会長、民生委員、地域包括、家族代表の参加を得て開催しています。会議では状況報告をおこなったり、地域の生情報もらえたりなど双方向のやりとりがあります。畑の貸出し提供をお願いし、実現した例もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に担当者をお招きすることは勿論のこと、定期的に役所への訪問を行っている	運営推進会議には毎回、市担当者の参加があり、議事録や案内は手渡しすることで密な関係の構築に努めています。区役所を入れた散歩コースがあり、担当者と挨拶や会話を交わす接点があります。早い機会に介護相談員の派遣を市にお願いする予定で積極的な関わりを心がけています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議などで話し合い理解を深めることを行い、職員に意識付けをしている。実際玄関など開放されている	「身体拘束ゼロ宣言」の下、玄関施錠はなく自由な雰囲気です。散歩のつもりで出てしまう利用者にも、気が済むまで職員が寄り添っています。また、開設時にはスピーチロックについて全員研修が行われています。今後外部研修にも積極的に参加して研鑽を積む考えです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議などを通じ職員への理解を図っているが、具体的な防止策はとられていない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在に於いては学ぶ機会が持っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にご理解いただけるまで、説明させていただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が施設に来られた際にご要望を伺うようにしている	法人から年1回の家族アンケートが実施されていて、直接言いにくい意見も吸上げ、反映される仕組みがあります。「キセキレイ」というホーム便りを担当者のコメント付きで毎月家族に送っています。土地柄か家族面会は頻回にあり、面会時に意見を聞ける機会が多くあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議に於いて、意見や提案を聞き、現場に指示として戻している	法人からの職員アンケートも実施されていて、業務ローテーションや当番制の実施など運営面での改善に役立っています。個人面談は2ヶ月に1度あり、「利用者と図書館利用のあと、喫茶店で休憩…」といった意見も出され、実現し利用者の外出の楽しみとなっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回評価を行い給与の改定を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は行っているが、施設外への研修には出れていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は持っていない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかりと行い信頼関係が築ける様に何度も説明を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来ていただいた段階から、丁寧に説明を行い、要望も初期の段階で伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様の状態やご家族様の状況等を考えた上で近隣施設への紹介なども行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームであることの概念を職員が持ち、我が家の一員である意識したサービスに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月の通信をお送りし、入居者様の状況をお知らせすると共に、ご本人様の普段の生活を向上させる為の方向や健康維持、受診などについて相談させていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋、美容院などに通うことや、ご友人をホームにお迎えすること、旧友との手紙のやり取りの支援など行っている	入所時に聞いた情報を基に、馴染みの美容院や買い物など、以前の実生活を尊重した支援をしています。人間関係が密な土地柄か友人の来訪も頻回です。晩酌をする利用者もいて、数人での飲酒会を設けたという例もあり、自分時計が少し戻ったような喜びが表情や態度にみられるとのことです	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事仕事の分担や花への水遣り、カーテンの開け閉めなど役割を担い、存在意義を感じて生活出来る様支援している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設の紹介や病院への入院の手配をおこなうなどし、その後の相談にも応じる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりを知る為に、職員が情報をひとつのシートに書き込んでいき、その人らしさをすることに繋げている。	管理者が作った「状況確認・発見情報シート」は分かり易い形での独自のアセスメントシートになっていて、思いや意向の把握がし易いと職員に好評です。入所前には利用者の家庭に出向き、その生活歴のバックグラウンドを汲取る努力がなされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	丁寧なアセスメントを行いご本人とご家族から情報を収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表、ケア日報、介護記録を個々に記入し、朝夕の申し送りをおこない情報の共有を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて意見の交換をし、家族には面会時などに要望などの意見を収集している	担当制を敷いています。家族の意向は頻回ある面会時に直接担当が聞き、「気づきシート」に記入して、ユニット会議で意見交換し、ケアマネジャーが介護計画を作成しています。家族には直接あるいは電話で詳細を説明して合意形成がなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日報、申し送りノートに記録をしたうえで、朝夕申し送りをを行い、情報共有しながら、意見を集約している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに於いて個々に合ったサービスを提供することは勿論のこと、日々の対応を行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや、商店(メガネ店、裁縫用具店等)へ買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム斜め前の協力医との良好な関係の基、ご入居者の健康管理に努めている。また、家族の希望により、入居前より、通い馴れた病院への通院介助を支援している。	向かいにある協力医と、今までのかかりつけ医を、利用者・家族が選んで利用しています。家族の受診介助は少なく、ほとんどは職員が付き添っています。「受診介助報告書」で情報を共有し、必要に応じて家族に連絡しています。歯科医の訪問診療が週1回あり、口腔ケアにも支援が向けられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師が、情報を共有しながら、適切な受診に繋がるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	都度、医療関係者との情報交換・相談に努めている。また、入・退院時にはホーム協力医への援助依頼や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にホームが対応できること・出来ないことの説明を行なっている。また方針については、早期に家族や医療関係者との話し合いを行ないながら、都度、共有を図っている。	重度化に関する研修は全職員行っていますが、看取りの実績はありません。終末期にかけた対応は、入居時に交わされた、医療行為はできない旨の書面のもと、合意形成が出来ています。常に揺れ動く家族の意向を鑑みて、定期的に意思確認ができる仕組みを考慮しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内や訪問看護ステーションとの連絡体制の共有は図っているが、応急手当・初期対応の定期的な訓練は行なえていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回計画しており、3月に実施、9月に訓練計画。運営推進会議を通じて、地域との協力体制についての話し合いを行なっている。	避難訓練は年2回、消防署にも協力してもらい開催しています。役割分担を決め、自主消防組織図に則り、夜間想定での防災連絡網の確認訓練を行いました。備蓄は法人本部から送られ、備蓄パッケージとして保管しています。	開所1年という事で、防災訓練に地域の参加が未だ得られていませんが、運営推進会議などで議題にし、参加協力を結び付けていかれることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフの業務的な言動(食量や排泄チェック等)が周りのご利用者に伝わらないよう配慮している。	排泄の声掛けには特に気をつけていて、個人の尊厳を損ねないよう心がけています。入社時の研修以外では接遇研修はしていませんが、常に目線を合わせて会話することに留意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	オープンクエスションを使いながら、職員からコミュニケーションを積極的に図り、本人の希望の把握や実現に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、ご本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びに関して、ご自身の意思が上手く表現できない方には、ひとつ一つ本人に確認をしながら、選ぶように心がけている。また、お化粧のお手伝い等も行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや配膳・片付けをご利用者と職員と一緒に進んでいる。また、時には利用者と一緒に育てた野菜を食材の中に取り入れている。	法人本部の未食工作成の献立表をもとに、職員が利用者の状態などを勘案しアレンジした食事が提供されています。殆どの利用者は準備から片づけまでを自然な形で手伝っています。男性利用者たちがランチョンマットをセットしている姿が目視され、参加意識の高い食事風景が見られました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては本社の栄養士の作成した献立を使用しており、概ねバランスが取れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者全員の毎食実施は出来ていないが、義歯の洗浄・管理は行なっている。また、訪問歯科と連携を図りながら、都度相談・アドバイスを頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パターンの把握に努め、自立に向けた支援に努めている。また、本人の意思を確認しながら、パットの種類についても都度検討をしている。	排泄チェック表を活用し、早めの誘導を行っているため、自立排泄に改善した例もあります。利用者の希望や状況に合わせてパットも用意し、画一的にならない支援に努めています。夜間は睡眠を第一に考え、個々の状況に合わせた方法をとっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動等にて便秘予防・解消に努めている。また、センナ茶を利用し、極力薬に頼らないに支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には午後に入浴を行なっているが、可能な限り、ご入居者の希望に沿って、回数や順序等に配慮している。また、入浴拒否がある方には、入浴後に酒肴品を提供する等、入浴が楽しみとなるように支援している。	希望があれば毎日入浴できますが、殆どの利用者は週2回入浴となっています。入浴嫌いの利用者には、おやつや入浴スタンプカードでインセンティブを設けるなどの工夫があります。入浴剤も取り入れ、マンツーマンの同性介助でゆっくり会話ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や照明の明暗等に配慮し、気持ちよく眠れるよう支援している。また、必要に応じて傍に寄り添ったり、音楽を掛けたりと配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬の使用開始や、切り替え時には用法・用量の周知を行い、理解に努めている。また、提供後の状態の変化や確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の様子や生活史から、利用者個々に出来る役割や楽しみ等、職員間でアイデアを出し合ったり、家族の協力を得て、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候を見ながら、散歩を日課として行っている。また、希望に応じて、買い物や外食等の機会を設けている。	散歩コースは、桜並木の川沿いや、スーパーでの買い物、また畑や区役所に行くなどのコースがあり、天候や体力、状態に合わせて付近散策が楽しめています。ドライブ外出では、花見や船明ダム、壬生ホールでのコンサート等に出掛けることで、以前の思い出の兆しを掴む努力をしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣い帳で管理しており、希望に応じて、使えるようにはなっていないが、中には家族の了承を得て、本人が小額を持っており、近隣のスーパー等で使用されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある方に関しては、電話や手紙等でもやり取りが出来るよう支援している。また家族への年賀状作りの取り組みも行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感を取り入れた空間作りを行なっている。	開設1年の未だプランニューな建物で、壁のぬり絵や手作り月カレンダーが季節感を醸し出し、明るく風通しの良い共用空間が出来あがっています。利用者で行う掃除とともに換気をおこなうほか、温度湿度計を参考にし、利用者に寒暖感を聞きながら温度管理に取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを配置したりと、心地よく過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との相談・協力により、馴染みの物を極力持ってきて頂き、居心地のよい居室になるよう工夫している。	エアコン、クローゼットは備え付けになっていて、ベッド、カーテンは持ち込みとなっています。仏壇、コタツ、自宅で使用していたソファ型椅子や畳のマット等、馴染みや思い思いのものが持ち込まれ、生活感とともに、居心地良い居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に各ご利用者様が分かりやすいように、扉に表札をつけたり、廊下には全て手すりを設置している。		